

## 令和4年度第4回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

### 会議結果報告書

1. 日 時 令和4年6月10日（金）14：00～15：30
2. 会 場 小山市立生涯学習センター ホール
3. 出席委員 17名出席（1名欠席）
4. 懇話会

#### ◆議事及び事務局説明事項

##### (1) 報告事項

① 「前回（第3回）の懇話会について」  
前回の懇話会を踏まえ、本会設置の経緯について補足説明

② 「市民アンケート途中経過報告」

##### (2) 議事及び事務局説明事項

① 小山市立生涯学習センターのこれからの<sup>ロードマップ</sup>未来予想図

② 令和5年度小山市立生涯学習センター事業実施計画（イメージ案）

③ 運営形態別コスト比較

A) 運営形態による業務内容及び職員人員の比較イメージ図

B) Aに基づくコスト比較図

C) Bの積算内訳

上記について、報告及び説明を行い、ご審議をいただきました。

委員からの主な意見等は次のとおりです。

#### 【委員の主な意見等】

質問・意見等	事務局回答
・条例を見直す場面で、懇話会の方々へオープンに情報発信をしながら行えばよいと思う。	・懇話会で決めていくのは難しいかもしれないが、見えるような形で検討を進めていきたいと考えている。
・館長が責任者ということだが、なぜ再任用なのか。現職が就くべきだと私は思っている。	・この資料はあくまでも案であり、今現在でこうすると決まったものではないので、今後検討していく。
・シルバー人材センターの配置人数は常時3人なのか、3人をローテーションでまわしていくのか、常に何人配置なのか教えていただきたい。	・常駐3人であり、3人は必ずいただくと人数となっている。

# 別紙 1

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの形態から新しい形態にするにあたり一番重要なのは、前の形態よりもどう変わってどういう部分を押し出していくのかということ。この重要な部分が今回出てきた。</li> <li>・今の指定管理と比べると総勢の人数が2名減になっていることや、今の生涯学習係が受け持っている業務をすべて持ってきてきちんとこなせるのが心配である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14名については延べ人数であるため、最低人数としては変わらない。むしろ他の業務が増えている分昼間の人数は今後の方が多い。</li> <li>・今までやってきたことは実績もありそれなりにやっていけるが、新しいことは、どんな風に進めていくのか、どのような分野を先に行うのかについて相談しながら進めていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館・市民交流センターへの支援充実事業はとても期待している。ぜひ強化していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この部分については公民館からも研修会ができないか、スキルアップ・情報交換できる場がないかなど声が寄せられているため、ぜひ強化していきたいと考えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今現在生涯学習系の業務は非常にボリュームがあるが、本当にこの人数の体制で大丈夫なのか。</li> <li>・駐車場の対策は、予算に盛り込まれているか、対応を考えているか。</li> <li>・公民館としてはパッケージや情報共有については大いに期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろ教えていただきながら実施していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センターがこれから担わなくてはならない機能として5つ。</li> <li>・1つ目は市内の活動の状況把握。</li> <li>・2つ目はそれぞれの活動の特色を活かして、複数の活動、団体、担当部署のコラボ事業等の企画。</li> <li>・3つ目は生涯学習に関する情報の一元化と発信。</li> <li>・4つ目は他では開設できないような全市民対象の講座の企画。</li> <li>・5つ目は生涯学習指導者の人材育成。</li> <li>・これら5点について今の状況で民間委託は無理な部分が多いため、工夫しながら少しずつ改善を試みて、その後また一番よい方法を考えるのがベストな考え方である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5つについて、これから取り入れていかなければならないことであり、積極的に取り入れていくべきことだと考えている。</li> <li>・人材育成については、まずは途切れずに生涯学習センター、生涯学習をまわし、巣立った後は他の課でも活躍していけるような人材育成を目指したい。</li> </ul>

# 別紙 1

<ul style="list-style-type: none"> <li>・下都賀地区の視聴覚ライブラリー協議会について、家庭教育などに関わっている団体に対して活用を働きかけたらどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚ライブラリーについては新型コロナウイルス感染症で外に出られないときに機械を持っている学童の一部で積極的にご利用いただいたと聞いている。</li> <li>・いろいろなところで利用していただけるよう啓発していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民の声や力を運営に反映させる仕組み」がある程度担保されているのであれば、市にしっかりとリーダーシップをとってもらいたい</li> <li>・生涯学習センターに市の職員が直営で入るのであれば、ロブレを中心としたまちづくりにも関わってくる。どうやってロブレに人が集まるのか、集まった人たちとどんな風にこの街を考えていくのかというのも生涯学習の1つ。</li> <li>・市民との対話の場をつくるのであれば、生涯学習課だけではなくて、他の課の職員も入って欲しい。そうすれば市全体で関与しなくてはいけない問題について、もっと大きな視点で議論できる可能性につながると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからはまちづくりと生涯学習は一緒に歩いていくべきなのではないかと考えているので、いずれは何か一緒にやっていきたい。</li> <li>・地域課題の解決などには各課の連携が欠かせない部分があると思われるので、少しずつではあるが取り組みを進めていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・親学習プログラムに関することや、地域学校協働活動に関すること、PTAに関する事などは、生涯学習センターを拠点として行うという考え方でよいか。</li> <li>・生涯学習センターは空き室が多いというイメージがあるので、生涯学習センターをフル活用していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局については生涯学習センターに全員移ってくるので、生涯学習センターで行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育とは何なのか、実際何をしたらよいかというところからなかなか進めずにいた。</li> <li>・ただ話し合いをしているだけではなく、動いて何かをしないと分からないとのことから交流会を開催していたが、このような具体的な話になってくると、社会教育委員としての役割、活動の</li> </ul>	

# 別紙 1

<p>仕方も少し変わってくるのではないかと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育をこのような中に入れていただければ、小山のために、市民の皆さんと一緒にできることがもっと明確になる気がする。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・野木町の文化会館は財団に委託していたが数年前に直営に変えた。そのとき、まずは職員が町をあげて行っていることを知り、会議なども全部知らせながら行うようにとお願いをした。</li> <li>・懇話会を設置して市全体の大きな問題として検討しているが、市の他の部局の方はどこまで分かっているのか。</li> <li>・結果だけではなく、このような意見が市民から出ているということを何らかの形で伝えていただけると、市全体の勉強になると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部課長会議で大きな話題になっており、他の部局も非常に親身になってよい意見をたくさん出してもらっている状況となっている。</li> <li>・このような大きな事業は全庁あげて行わないといけないのに、教育委員会の生涯学習課という1つの課が担当して、他の部署は任せると進めていたことが間違いであり反省点である。</li> <li>・この懇話会の結果などを他の部局や議会にきちんと説明して理解していただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実質的に直営で行った場合の細かい話まで出ている。これはもうそのまま行くということだと思うので、賛成・反対ではなくどんどん進めていくとよいと思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・横のつながりをより強くして、生涯学習につながるものはすべてここに相談すれば答えが返ってくるというようなところがあるとよいなと思っている。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに必要なのは学校と家庭と地域のトライアングルであるが、小山市で生涯学習が本当に浸透してくるのであれば、地域で子育てをすることが浸透していけばよいと思う。</li> <li>・人権教育について、発信力がないのが小山市の現状である。生涯学習が小山市の教育の中心になるのであれば、人権教育だけでなく小山市の教育力を取りまとめていけるような組織がつかれるとよいと思う。</li> </ul>	

# 別紙 1

<p>・生涯学習センターは現在公民館運営審議会の構成メンバーではないが、みんなで携わる生涯学習としてぜひ生涯学習センターを公民館運営審議会に加えていただきたい。</p>	<p>・具体的に検討していきます。</p>
<p>・ただ学んでああよかったというだけではなく、自ら学びを見つけにいてその課題を読み解いて、新たに企画する側に立って発信するという取り組みは、市民の人材育成になる。自立した、成長した市民を多く生み出していくことは小山市にとっても市民協働につながるし、これから生涯学習センターを運営していく上での大きな力になると思う。</p>	<p>・資料3については懇話会や市民フォーラム、市民アンケートの内容を多く取り込んでいる。ニーズが入ると皆さんにも届くのだと実感している。</p>
<p>・ぜひ子どもたちや若者が先生になれるような講座をつくっていただきたい。お互いに世代を超えて学び合える環境をつくっていくことが、まさに生涯学習センターの役割だと思う。</p>	
<p>・小野塚記念館について、今後生涯学習センターの直にするのか、今まで通り中央公民館の傘下にするのか、教えていただきたい。</p>	<p>・小野塚記念館の来年度以降の管理については、今のところはまだ変えるような話は出ていないので、今後も継続して中央公民館にくっついた形になると思われる。</p>
<p>・子どもの教育に関していろいろと力になってくれる地域の方々がいるが、学校という小さい・狭い範囲で活動されている人たちをコーディネートする機会や、子どもたちが地域に出て地域の方々と一緒に活動するような機会をどうするかについての情報交換の場を生涯学習センターが提供できないか。</p> <p>・子どもが生き生きとした大人たちを見て、自分もこんな大人になりたいという未来を描けるような小山市になるために、学校を巻き込んだ取り組みについて、小山市は何か考えがあるか。</p>	

# 別紙 1

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と学校の連携については、学校側は一生懸命努力している。地域がもっと学校側に寄り添っていかないと、学校と地域の連携というのはきちんと整っていかないとと思う。</li> <li>・地域の教育力や地域力について、行政側が生涯学習として必要なのだということを中心に発信していただきたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働活動というのは、別の言い方でコミュニティスクール、学校とともにある地域づくり、地域とともにある学校づくりであるが、こうしたことをここに謳ったことはとても意味がある。</li> <li>・地域の方でいろいろな資格・得意なことをもった方との橋渡し・連携を地域連携教員や学校だけに任せるのではなく、生涯学習の一環として行うのがよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールについて、小山市は以前から地域の教育力を学校の中に取り入れて、全体で子どもたちを育てていこうという取り組みはあった。</li> <li>・実際に間々田地区では、公民館で活動されている方たちが積極的に学校に協力を申し出てくださり、多くの地域の先生が選択授業に来てくださったという事例がある。</li> <li>・地域連携教員や選択教科の教員など、いろいろな角度から地域の力を生涯学習の一環として学校へ取り込む動きはしていたが、残念ながら大きな流れになるまでは育ておらず、各地域でそれぞれが頑張っているのが現状。</li> <li>・地域の力を取り込むことは大きな課題だと思うので、努力していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・羽川小学校では学校と地域の連携について自治会長なども考えている。実際今年を行っている。</li> <li>・地域の方々がやる気がないからできないのであって、もっとそういう部分を刺激してやるべきではないか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理がだめだとか、小山市は市民力がないのだとか、間違っって伝わってしまう可能性がある。情報の出し方は、市民力が育ってきている過程の中で協働</li> </ul>	

## 別紙 1

をより強化し一気にブレイクスルーしていくその段階まで来ているのだというような見せ方にすることが大事。

・資料だけが出歩くと、民間に任せていて、だめだから戻しましたと見えかねない。なので、最初の事業運営方針のところに「協働」や「市民の力を活かしながら」といった具体的な言葉を入れ込んでいくことが姿勢としてとても大事である。

### 【その他】

・今回事務局が用意した資料の方向性で提言書（案）を作成し、第5回懇話会で諮るということになった。

<会長より>

・今回の意見交換を振り返って、この懇話会で問われているのは、小山市の生涯学習がどうあるべきなのかというビジョンを描き切る力があるのかどうか、描く覚悟があるのかどうかということであったように思う。

・今の段階はあくまでも計画であり、紙に書いたものでしかない。これを実体化していくときに、どういう風にしていくのかがとても重要であり、懇話会の皆さんが1つのチームになって今後の方向性を実現していけるものになればよいと思う。

◆質疑応答後、次回の日程(6/30開催)についてご連絡し、閉会しました。